

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研 究 テーマ	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響 -他施設で出産する女性に焦点を当てて-				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 実穂
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目
妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響 -他施設で出産する女性に焦点を当てて-
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】少子化や児童虐待、産後うつなどの妊産婦や子どもをめぐる様々な問題解決に向け、「妊娠期からの切れ目ない支援」をキーワードとした支援が進められている。こうした現状から、令和4年度教員特別研究「病院出産を選択する女性が妊娠期から地域開業助産師と繋がることによる産後うつ予防の効果（研究代表者：高木静）」、令和5年度教員特別研究「妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響－他施設で出産する女性に焦点を当てて－（研究代表者：大和田裕美）」において、静岡市助産師会と協力し、すべての母子が妊娠中から地域開業助産師の存在を知り、妊娠中から育児期にかけて継続的なケアを受けることができることを目的とした「地域助産師との交流会-Go to 産婆-」（以下、交流会）を企画・運営してきた。本研究では、妊娠期から出産施設とは異なる助産所助産師と交流し、継続的にケアを受けることが女性にとってどのような経験であり、妊娠・出産・子育てにどのような影響を与えるのかを明らかにするため、交流会を企画・運営し、その影響について検討した。 【研究の成果】令和6年4月から令和7年3月まで、静岡市内の助産所等を会場に計20回の交流会を開催した。参加者は計188名であり、その内訳は妊娠期から子育て期の母子、助産師・助産所に興味のある学生等であった。さらに、これまでの交流会に参加した後、病院・診療所で出産した4名の女性の協力を得て、個別の半構造化インタビューを実施した。インタビューでは、女性にとって、妊娠期における助産所助産師との交流がどのような経験であり、それがその後の妊娠・出産・子育てにどのような影響を与えたのかをできるだけ自由に語ることをできるよう促した。研究協力を得た女性たちは全員が経産婦であり、これまでの妊娠・出産・子育て時に、病院・診療所での支援を受けながらも、悩みや不安を「誰に相談したらいいかわからない」という思いを経験していた。そして、「たまたま」あるいは支援を求める中で交流会へ参加し、出産後も「また会いたい」と助産所助産師や他の母親との交流を継続していた。女性たちが「自分には関係ない」ととらえていた助産所は、交流会への参加を通じて、妊娠期から子育て期までの支援と交流の場となっていた。 【今後の展望】助産所助産師と妊娠期から子育て期の女性等との交流会を継続するとともに、その効果について引き続き検討していきたい。